

## 『SD なお見合い』

作：佐藤剛史（伽藍博物堂）

フェイスシールドをした男と女が距離を取って座っている。

男 ……(少し目をそらし息を吐く)

女 え？

男 はい？

女 今、何か？

男 何か？

女 何かおっしゃったんじゃない？

男 いや、何も。

女 そうですか。……すいません。

男 いえ、声聞きにくいですものね。

女 あ、はい。

男 なるべく大きな声でしゃべります。

女 では、私も。

男 はい。

間。

女 実は私、……お見合いは三回目なんです。

男 あ、そうなんですか。

女 はい。もちろん今までののは、こんなじゃなかったんですけど。

男 こんなど時世ではこんなですよ。

女 すいません。

男 いえ。

女 焦ってるって思われるでしょうね。

男 そんなことないですよ。

女 もう少し収まってからでも、って。

男 でも、いつ収まるかわかりませんから。

女 そう言っただけだと……ありがとうございます。

男 私の方こそ。こんな時期にこんなところにのこのこ来てるわけですから、焦ってる様に、  
ね。

女 そんな風には。

男 お互い様ですよ。

女・・・はい。

間。

男・女（同時に）・・・あの・、あ、どうぞ・・・（お互いに少し笑う）

男・・・では、私から。

女　どうぞ。

男　実は・・・私の方は、十五回目なんです。

女　え？

男　すいません。

女　いえ。え？

男　そうですよね。戸惑いますよね。そんなに何回もってことは、私に問題があるんじゃないかって、思いますよね。

女　いえ・・・いえ・・・

男　初めの頃はすごく理想を持ってこういう場に臨んでいたんです。でも、だからでしょうか。ちょっと理想と食い違うな、と感じると途端に覚めてきちゃって。これじゃいけない、と思って、理想は一旦脇に置いておいて、なるべくいろんな人と会うようにしたんです。

女　はい。

男　そうすると今度は「自分は、本当に結婚がしたいのか？」という疑問がわいてきて。

女　はい・・・

男　で、結局大した成果も無く、回数だけを重ねてしまう。会う約束をして、会って、話をして、別れ際に次の約束をして、また会って、話をして・・・。そうしていざ結論を、という時になると、可もなく不可もなく・・・。ということはつまり「不可」なんですけどね。

女　はい・・・

男　ヒットは出るけど、「これだ」という長打は出ない。ましてやホームランを打てるわけがない。よく「ヒットの延長がホームランだ」と言いますが、こういう場合は当てはまりませんね。そういえば、イチローは「ホームランは狙って打つ」と言っていました。きっと、そっちなんです、こういう場合は・・・だからホームランを望んでいない自分がホームランを打てるわけがない。そうすると、いろいろと考えてしまいますよね。私のような者がチームに残る意味はないのではないのか、もっと意識の高い人に機会を譲るべきではないのか、端的に言ってしまうえば「引退」すべきではないのか。

女　・・・

男　加えてこんなご時世です。新たな出会いを求めることが罪にさえなってしまうような世の中で、私のような者に一体何が出来るのでしょうか・・・

女 . . .

男 . . .ところが、こんな非日常的な時に、出会いを求める人がいた。 . . あなたです。

女 はい

男 それを知った時、自分の中で何かが動き始めたのです。動き始めたという事は自分にとってこれは不要不急ではないのではないかと。必要不可欠な外出ではないのか、と。

女 はい。

男 考えてみれば、こんな時期にわざわざ出会いを求めるわけですから、単なる冷やかしかんかじゃない。それだけ真剣な方のはずだ。それなのに、この時期では相手になる方もそうそういるわけではないだろう。ならばベテランである私が手を上げるべきではないか、と使命感さえ芽生えてきたんです。いやむしろ、そのために私は今まで引退せずチームに残っていたのだと。

女 はい？

男 . . . . .興味本位で来てしまったみたいに聞こえたら

女 いいえ

男 申し訳ありません。

女 . . .実際、こうして会ってみてどうですか？

男 はい？

女 私と、こうして会ってみて。

男 はい。 . . .とても正直な方だと。

女 正直？

男 ああ . . .最近では写真、いくらでも加工できるじゃないですか。

女 はい。

男 だから写真で期待はしないようにしてるんです。でも、あなたは写真通りにお綺麗な方で

女 そんな . . .私もちよっと修正してあります。

男 そりゃあ、多少はしますよ。私だって。

女 え？

男 私の写真も、ちよっと。

女 あ、そうなんですか。

男 ちよっとだけ、この辺を。

女 あ、私もちよっとだけ、この辺りを . .

二人、少し笑う。

男 でも、こんなもの（フェイスシールド）してるから、正確には確認しにくいですね。

女 ええ。

男 でも、こういうものは徐々に知り合っていくものですから。焦ることはないですよ。ね。  
女 ええ。  
男 いや、今のは「焦ってないよ」アピールじゃないですよ。そういう考えを述べただけで。  
女 わかってます。  
男 さっきあなたも、焦ってないって言ってたでしょ。  
女 いえ・・・  
男 お互い焦ってるわけではないけれど、こんな時期に思い立ってこんなところにやってきて。まあ、こうして顔を合わせて、こいつ（フェイスシールド）越しですが、こうして会ってみよう、と思うわけですから。私たち、気は合いそうですよね。  
女 あの、  
男 はい。  
女 私は「焦ってない」とは言ってません。  
男 え？  
女 「焦ってるって思われるでしょうね」と言っただけで。  
男 あ、正確にはそうなんですけど。全然、そんな、焦ってるようには見えませんから。お互いに。  
女 焦ってちゃダメですか？  
男 え？  
女 実は私、今すぐにでも結婚したいんですよ。  
男 え？ 今？ すぐ？  
女 はい。  
男 ええ・・・  
女 ダメですか？  
男 ダメというか・・・  
女 あなたも、必要不可欠な外出だ、って  
男 言いましたけど  
女 これは運命だ。  
男 それは言ってません。  
女 私が言いました。  
男 はい？  
女 私が言いました。「これは運命だ」と。  
男 さっき？  
女 今、私が、言いました。  
男 ・・・はい・・・  
女 ですから、もしお互いに気が合いそうだと思ってもらえるのなら、このまま、この先へ話を進めてもよいと思うのですが、どうでしょう？

男 いや、しかし・  
女 焦ってるように見えますか？  
男 あ  
女 いいんです。焦ってるんです。それでいいんです。  
男 私は、  
女 あなたも、私のこと「正直でいい人だ」「お綺麗で好みだ」って、おっしゃってくれた  
じゃないですか。  
男 おっしゃいました？  
女 はい。・・・そんなようなニュアンスの事を。  
男 うん。まあ、ニュアンスとしてはそんな伝わり方をしたかもしれませんね。  
女 ・・・嫌なら、はっきりとそうおっしゃってください。  
男 嫌というわけでは・  
女 でも・・・  
男 ・・・ぶっちゃけ、今の私にはお付き合いしている女性はいません。  
女 男性？  
男 男性もいません。  
女 すいません。  
男 ですから、もしどうしても「今、誰かとお付き合いしなければいけない」となったら、  
あなたを選ぶと思います。  
女 ありがとうございます。  
男 しかし、今「どうしても」という、切羽詰まった状況ではないので、できればゆっくり  
時間をかけて  
女 私も出来れば、ゆっくりと時間をかけて愛を育てていきたいと思っています。  
男 でしたら  
女 時間がないんです。  
男 え？  
女 私たちには時間がないんです。  
男 私たち？  
女 ・・・私は早くに母を亡くし、男手一つで育ててもらいました。  
男 そうですか。  
女 ちなみに一人娘です。  
男 はい。  
女 その父が・・・今、入院してまして。  
男 それは大変ですね。  
女 ええ。

間。

男 ……まさか。生きているうちに花嫁姿を？

女 そこまで贅沢は言いません。

男 贅沢…

女 父一人、娘一人で今まで来ましたから、父は自分に万一のことがあった場合、残される私のことをとても気にしてはいます。

男 でしょうね。

女 それでも「結婚しろ」とは言いません。ただ、「いい人はいないのか？」と聞いてくるんです。

男 はい。

女 父は、「私にちゃんとした人が出来ないと安心できない」って。

男 ……それ、私が行ったら安心してあの世に行っちゃわないですか？

女 それなら、それでいいんです。

男 いいんですか？

女 最悪の事態は免れるわけですから。

男 最悪の事態…

女 私が独り身のまま、父が…

男 わかりました。

女 わかってもらえました？

男 いや、あなたの置かれた状況はわかりました。思った以上に事態が切羽詰まっているということですね。だからこそ、そう軽々しくお返事するわけにはいかないと思うんです。その、お父さんの事も考えて、

女 でも、私に対しては？

男 今は好意をもっています。

女 ありがとうございます。

男 しかし…正直それがいつまで続くかと

女 とにかく今、好意を持っていてくれれば、文句は言いません。

男 お父さんを騙すことには

女 なりません。大事なものは「今」ですから。

男 しかし

女 「今、誰かとお付き合いしなければいけない」となったら？

男 はい、そう言いました。

女 結婚の可能性も？

男 まあ、ここはそれ前提の場ですから…

女 それで充分です。どうせ男と女なんて、そうでしょ？ 時間が経てば離婚するわけですか

ら。

男 離婚前提なんですか？

女 いえ。出来れば離婚は避けたいですけど、しちゃうじゃないですか。

男 しちゃう、って。

女 神前でも人前でも、永遠の愛を誓うのに。時間が経つと別れちゃうじゃないですか。

男 そういう人もたまには

女 たくさんいます。

男 え？

女 身近でたくさん見てきました。

男 そうですか。

女 はい。・たくさん見てきました。

男 確かに、私の周りでも何人かいます。

女 でしょ？

男 でも、

女 もちろん、離婚しないならしないに越したことはありません。ましてや、離婚を前提に結婚するだなんて、言語道断です。

男 そうです。

女 先の事はわかりません。だからこそ大事なのは「今」。今、「結婚を前提とするお付き合いを始める」というだけで、充分なんです。その点で合意があれば、そこに嘘偽りは無いわけでしょ？

男 そうですね。

女 そういうことです。

間。

男 ・・事情はいろいろとわかりました。

女 わかっていただけました？

男 はい。こんな時期に、こんなところへやってきたのは、それなりの理由があるということ。短い時間ではありますが、我々はお互いに悪くない感触を持ち合っているということ。

女 そうです。

男 で、あるなら。「結婚を前提とするお付き合いを始める」こともやぶさかではない。

女 ありがとうございます。

男 しかし、このご時世、お付き合いを始めると言っても、そう簡単に濃厚接触するわけにもいきません。

女 私、覚悟はできています。

男 え、覚悟って。  
女 あなたが望むなら。仕方ありません。  
男 仕方ありません、って。  
女 ごめんなさい。そんなつもりでは。  
男 私もそんなつもりでは。  
女 ・・望むところです。  
男 え？  
女 濃厚接触、上等。  
男 無理しなくても  
女 無理なんかしてません。何なら今ここでだって（フェイスシールドを取ろうとする）  
男 それは、やめましょう。

二人は世間（客席？）を見る。

女 そうですね。  
男 このご時世ですから。  
女 少し、冷静さを欠きました。お恥ずかしい。  
男 いえ。

女が落ち着く間。

男 ・・・・・あの  
女 はい。  
男 私はどうなんでしょうか？  
女 どうって？  
男 あなたは、その・・切羽詰まった状況から冷静さを欠いてしまい「誰でもいい」と思っ  
てやしないか、と。  
女 そんな事はありません。  
男 そうですか？ もう一度冷静になって考えてみてください。私のように十五回もお見  
合いを繰り返しているような男が相手に本当がいいのか？ 万一焦って間違った選択  
をしてしまったら、お父さんも含め私たちに良いことは何もありません。  
女 そんな事・・  
男 私が自分に自信がない、ということもあるので変なこと言いだして申し訳ないんです  
が。もう一度よく考えてください。あなたがどういう結論を出しても、私は受け入れら  
れるだけの経験は積んでいますから。  
女 ・・・・・確かに私は「時間がない」という理由でハードルを低く設定していたかもし



れません。でも、あなたは私の事情をわかった上で逃げ出したりはしなかった。だったらそれで充分なんじゃありませんか？

男 可もなく不可もなく？

女 …女の人は、理想の男性像を聞かれた時によく「優しい人」って答えるじゃありませんか。

男 私は優しいですか？

女 女の人が言う「優しい人」って、結局は「自分の話をちゃんと聞いてくれる人」なんです。あなたは私の話を逃げずに聞いてくれました。ちょっと重たい話や、少し強引な要望にも答えようとしてくれました。…理想的な男性だと思います。

男 ……

女 ダメですか？

男 …気がついたら、私の打球は外野フェンスを越えていたんですね。

女 はい？

男 わかりました。私たちは、「結婚を前提とするお付き合いを始める」ということでよろしいんですね。

女 はい。よろしくお願いします。

幸せな間。

女 って、何をしましょうか？

男 そうですね。今日のところは…

女 今日のところは？

男 まず、少し距離を縮めませんか？

女 え？ 距離？

男 物理的な距離です。

女 物理的な？

男 私とあなたは、これからさらに近い関係になる予定です。

女 濃厚接触？

男 その前段階です。例えば、今の私たちのこの距離は、社会的距離なわけです。

女 社会的距離？

男 ソーシャル・ディスタンス。元々は他人同士の距離というような意味合いです。

女 寂しい言葉ですね。

男 ええ、お互いのパーソナル・スペースを侵さない距離です。とはいえ、今のこれは距離を取り過ぎていているように思います。ですからここから、少しだけ近づいてみませんか。

女 触れ合える距離まで？

男 いいえ。触れ合う、少し手前。ソーシャル・ディスタンスぎりぎりのところまで。

二人は立ち上がり、少しずつ距離を縮めていく。

男 あ、

女 あ

男 このくらい・・・かな。

女 ソーシャル・ディスタンス。

男 アメリカでは「6 フィート以上」と言われています。大体 180 センチですね。普通に手を伸ばしても触れ合うことはできません。

女 6 フィートは 180 センチなんですか？

男 はい。

女 6 尺も 180 センチですよ。

男 ああ、尺貫法ですね。

女 日本とアメリカと、同じなんですね。

男 偶然ですよ。フィートは「フット」、足というか歩幅が基準ですが、尺は「尺骨」、肘から手首までの長さなんです。

女 (腕を見ながら) この長さ 3 個分ずつじゃあ、お互いギリギリ、手は届かないですね。

男 ええ。

女 でも、さっきよりあなたを近くに感じます。

男 実際、近づいてますし。

女 いえ、物理的な意味でなく。

男 ・・はい。

間。

女 すいません。私、父のことであなたにプレッシャーをかけてしまったかもしれませんね。

男 そんなことはないですよ。

女 それなのに今は、まだ、あなたより父の方を大切に思っています。

男 わかっています。

女 でも、そのうちに・・・

男 わかっています。

女 ・・やっぱりあなたは優しい方ですね。

男 そしてあなたは正直な方だ。

女 すいません。

男 ・・もしかしたら、私に欠けていたのは「どうしても」という真剣さだったのかもしれませんが。それを、理由はどうあれ、あなたに教えてもらった気がします。

女 私が？

男 はい。

女 迷惑では？

男 いいえ。私には必要不可欠な事だったんです。

二人は見つめ合う。そしてゆっくりと手を伸ばし合う。

二人の指先はかなり近くなる。

しかし指先が触れ合わないまま、二人はお互いの手を自分のところに戻す。

男 お父さんの病院へ行きましょう。

女 この距離は保ったままで？

男 ええ。今日のところは。

女 今日のところは・・・

見つめ合う二人。

— 幕 —